

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年2月号)

2024/1/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは1月31日（水）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		1月30日現在 (矢印は12月末比)	2月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 147.81	↘ 140.00 ~ 155.00
	日銀のマイナス金利解除を見据えて円高基調		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 1.084	⇒ 1.00 ~ 1.13
	ユーロ・円 (円)	↗ 160.21	↘ 145.00 ~ 165.00
	短期的には反発も、上値も重い		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↘ 1.268	↗ 1.20 ~ 1.32
	ポンド・円 (円)	↗ 187.43	↘ 175.00 ~ 195.00
	FRBの早期利下げ期待で底堅い推移		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 97.44	⇒ 94.00 ~ 99.00
	NZドル・円 (円)	↗ 90.50	⇒ 88.00 ~ 92.00
	リスク選好で買われやすいが、上値も重くなりやすい		
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 36,066	⇒ 34,000 ~ 37,000
	ハイテク銘柄への期待や3月配当取りの動きを受けて底堅く推移		
	NYダウ (ドル)	↗ 38,467	↗ 36,000 ~ 39,000
長期 金利	ハイテク株主導で小幅上昇を見込む。高バリュエーションは正当化され得ると考える		
	日本 (%)	↗ 0.705	↗ 0.50 ~ 0.90
	日銀の3月~4月利上げの確度が高まった		
	米国 (%)	↗ 4.032	↘ 3.50 ~ 4.50
	FRBが利下げに向かっている方向性は揺るがない		

◆ 今月の注目ポイント

中銀と市場のコミュニケーション

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
金融政策	◎	【日銀】【FRB】【ECB】2月は主要国の中銀会合は開かれないが、それだけにブラックアウト期間がなく、中銀高官からの情報発信機会が多い。各国とも「今すぐではないが、春~夏にかけて政策変更があり得る」という複雑なコミュニケーションが求められる。市場の織り込みも揺れ動いており、ヘッドラインに反応して振れ幅が大きくなる可能性には注意が必要だろう。
景気	○	【米欧景気動向】米国経済は減速傾向とはいえ、10-12月期は前期比年率+3.3%と想定以上の高成長を維持した。雇用市場も底堅い推移が継続している。一方、製造業の景況感は急速に悪化している兆候もある。またユーロ圏は10-12月期での景気後退入りは辛うじて回避したものの、中核をなすドイツはマイナス成長が続いている。春から夏にかけての政策変更を見据えて、各国の経済指標への注目度がますます高まっていくだろう。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	⇒ 19.71 ~ 21.52	ルピー・円	↘ 1.73 ~ 1.83
バーツ・円	↘ 4.00 ~ 4.30	ウォン・円	⇒ 10.75 ~ 11.25
ルピア・円	⇒ 0.90 ~ 0.95		

◆ 今月の重要日程

1日(木) 欧	1月CPI	14日(水) 欧	23/4QGDP
1日(木) 米	1月ISM製造業	15日(木) 日	23/4QGDP
2日(金) 米	1月雇用統計	15日(木) 米	1月小売売上高
中旬 米	FRB議長半期議会証言	22日(木) 欧	2月PMI
8日(木) 中	1月CPI・PPI	27日(火) 日	1月CPI
13日(火) 米	1月CPI	29日(木) 米	1月個人所得・消費支出

◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

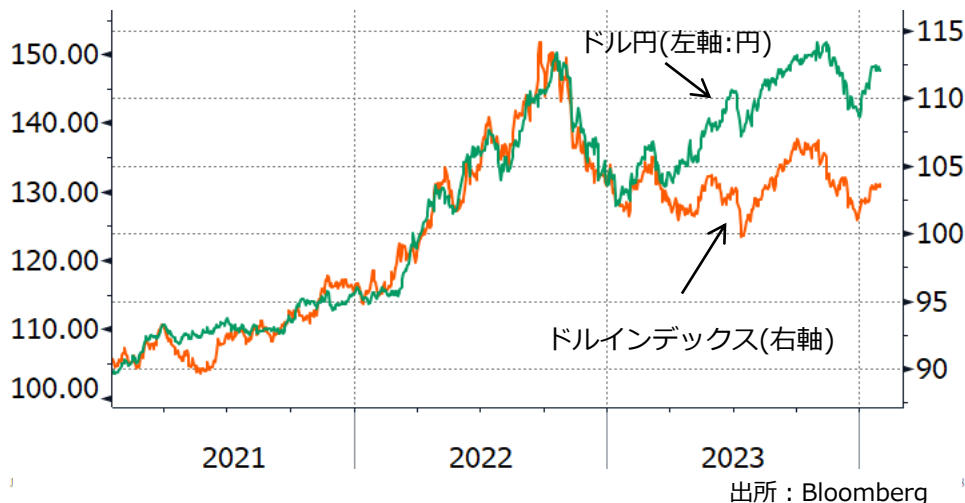
(2024年2月号)

2024/1/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

140.00 - 155.00円

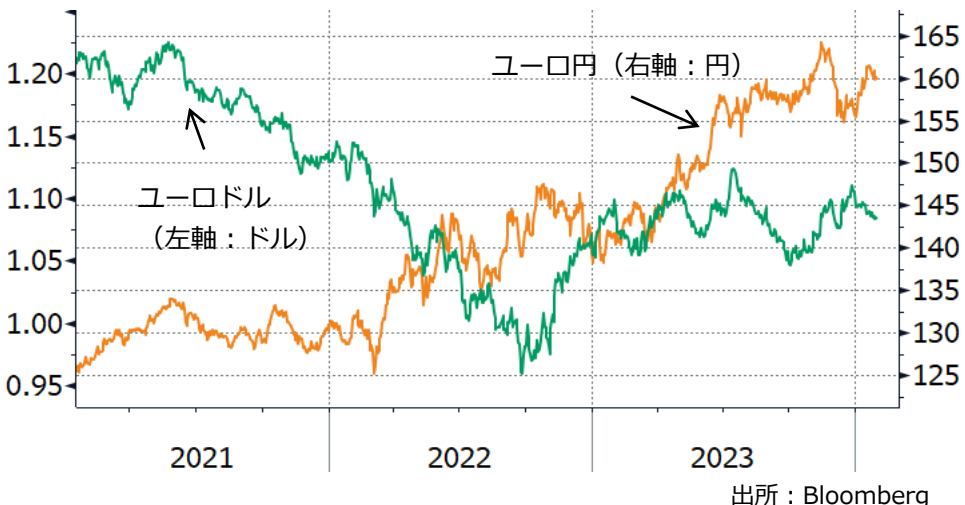
日銀のマイナス金利解除を見据えて円高基調

1月のドル円相場は右肩上りの上昇となり、12月の下落分をほぼ取り戻した。年明けに日銀のマイナス金利解除が遠のいたとの見方から上昇に転じると、米国で予想を上回る経済指標が続き、米金利が上昇したことも重なり、ドル高円安基調となった。日経平均株価が34年ぶりに36,000円台を回復する等、リスクセンチメントが改善したことも追い風となった。

一方、中旬以降もドル円が底堅く推移したことはやや解釈が難しい。日銀がスタンスをタカ派よりシフトさせ、利上げ織り込みが再燃するなかで国内長期金利は上昇し、FRBの利下げが近づくなかで米金利は上昇が一服している。日米金利差が縮小するなかドル円はやや上値を抑えられているが、140円台後半での高止まりが継続した。

金利市場と為替市場で織り込み方に温度差がある可能性や、株価の上昇がリスクセンチメントを下支えしている可能性、原油価格の上昇が潜在的な円売り圧力と捉えられている可能性等が挙げられるが、いずれにせよ2024年に主要国で利上げが想定されているのは日銀のみであり、春にかけては徐々に上値が重くなっていくと見ている。現状、マイナス金利解除後の日銀の利上げ動向にコンセンサスが得られていない点が、今後の焦点となっていくだろう。

ユ ー ロ



ユーロドル



ユーロドルは横ばい

1.00 - 1.13ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

145.00 - 165.00円

短期的には反発も、上値も重い

1月のEURは堅調な米国経済指標を受けたドル高の動きや、ハト派的と捉えられたECB理事会を受け対USDで下落、対JPYでは年明けに日銀のマイナス金利解除が遠のいたとの見方から上昇したが、日銀のマイナス金利解除への思惑が高まったことや、ハト派的なECBを受け上げ幅を縮小した。

2月のEURは横ばいを見込む。1月のECB理事会では、インフレ鈍化を受け、内生的なインフレを警戒する声明文の記述が削除されたり、ラガルド総裁が夏の利下げ観測を明確に押し返さなかったことからハト派的と捉えられ、ユーロは軟調な推移となっている。一方、ECB内では年前半の賃金動向を見極めたいとされ、早期の利下げは見込みづらい。早ければ3月にも利下げを開始する可能性のあるFRBとの政策の違いから、短期的には反発を見込むが、先行きの利下げ観測から上値も重い。対JPYでは日銀の3月以降のマイナス金利解除への思惑からEUR安JPY高を見込む。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

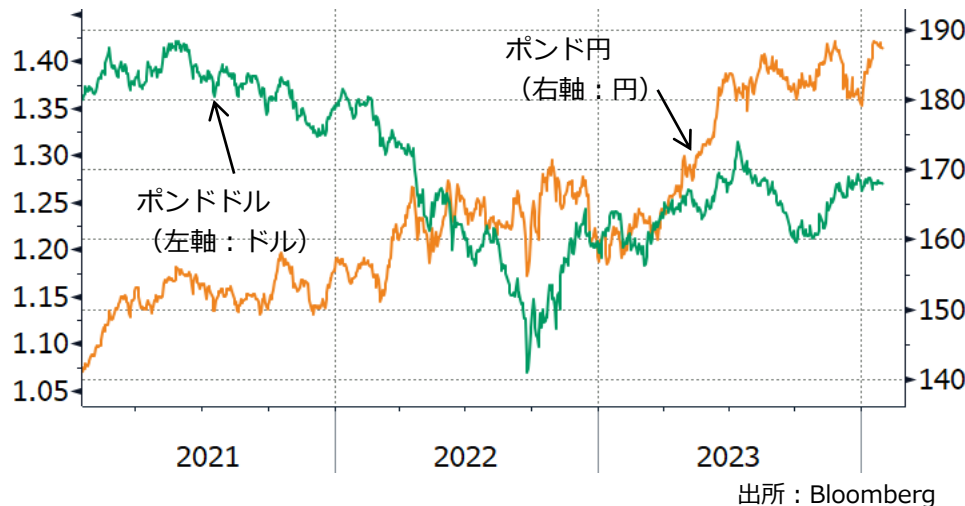
(2024年2月号)

2024/1/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し② 為替（ポンド・豪ドル・NZドル）

ポ ン ド



ポンドドル

ポンドドルは上昇

1.20- 1.32ドル

ポンド円

ポンド円は下落

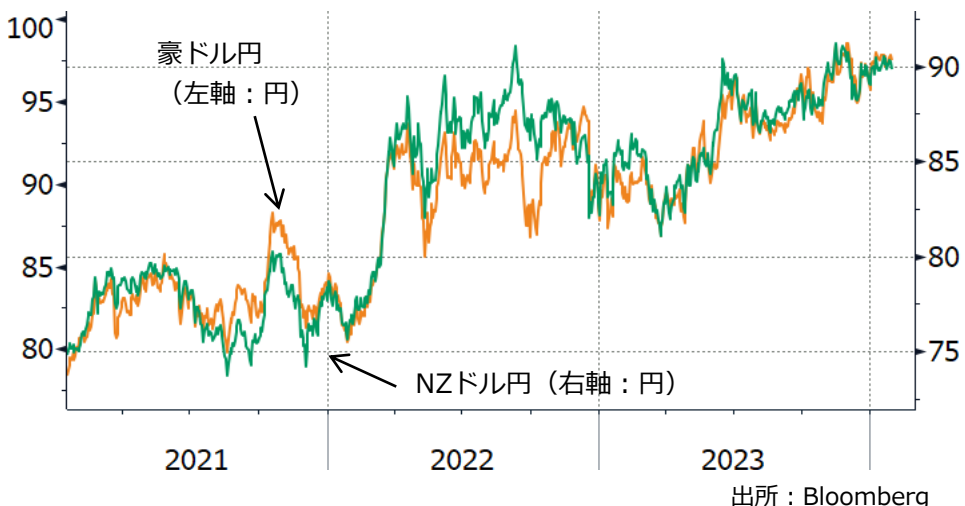
175.00 - 195.00円

FRBの早期利下げ期待で底堅い推移

1月のGBP相場は対USDで横ばい、対JPYで上昇。対JPYでは年明けに日銀のマイナス金利解除が遠のいたとの見方からJPYが弱含み推移となったことを受け、円安が進行した。

2月のGBPは底堅い推移を予想する。米国では早ければ3月の利下げも視野に入るが、インフレが減速しているとは言え高止まりする英国は、米国ほど早期の利下げは見込みにくい。足元英国の景況感を示す指標は改善の兆しもみられており、米国の利下げ観測両国金融政策の違いからGBPは底堅い推移が見込まれる。一方、直近の金融政策決定会合(MPC)では6対3で政策金利が3会合連続で据え置きが決定したが、インフレの着実な低下を受け、2/1のMPCでこの割合に変更があるか、また声明文等での先行きのガイダンスに変更があるかが注目される。対JPYでは英国政策金利が据え置かれる一方で、日銀は早ければ3月のマイナス金利解除の思惑が高まっており、政策変更への思惑が燃えることから、上値の重い展開を予想する。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円

豪ドル円は横ばい

94.00 - 99.00円

NZドル円

NZドル円は横ばい

88.00 - 92.00円

リスク選好で買われやすいが、上値も重くなりやすい

1月のオセアニア通貨は対円で上昇した。年始から日銀の政策修正が遠のいたとの見方が広まったことや、株高によるリスク選好の動きから底堅い推移となった。経済指標は豪雇用統計が大幅に市場予想を下回るなどしたが、大きく材料視はされなかった。

2月のオセアニア通貨は横ばい推移を見込む。欧米中銀の利下げへの期待による世界的な株高が継続しやすい中、リスクセンチメントに敏感な豪ドル、NZドルは引き続き選好されやすいだろう。欧米中銀と比べて比較的タカ派の豪中銀、NZ中銀のスタンスもサポート材料となる。底堅い鉄鉱石の価格も好材料になりやすい。一方、先行きの日銀のマイナス金利解除への思惑が燃える中では、上値は重くなりやすい。特に比較的経済指標が軟調なNZドルは上値が重くなりやすいと見る。6日に行われる2月のRBA会合では、米欧中銀の利下げが視野に入中で、どのようなスタンスが示されるかが注目される。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

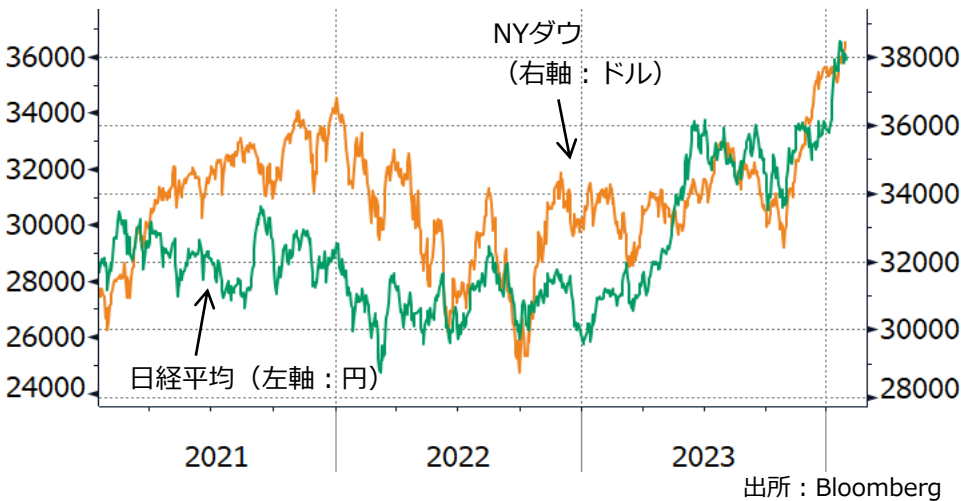
(2024年2月号)

2024/1/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

日経平均は横ばい

34,000 – 37,000円

ハイテク銘柄への期待や3月配当取りの動きを受けて底堅く推移

1月の日経平均は、日本のデフレ脱却等の構造改革期待で海外から資金が流入し大幅上昇。また、TSMCの良好な決算を受けて、ハイテク株には決算を先回りした期待先行の買いが入ったとみられる。2月にかけて本格化する決算発表で、投資家の期待を上回る好決算が示されればもう一段の上昇も期待できよう。短期的にはやや過熱感もみられるが、利益確定売りなどで下落した際には、出遅れた個人や配当取り目的の買いが入り、日経平均は横ばい圏で推移しよう。

NYダウ

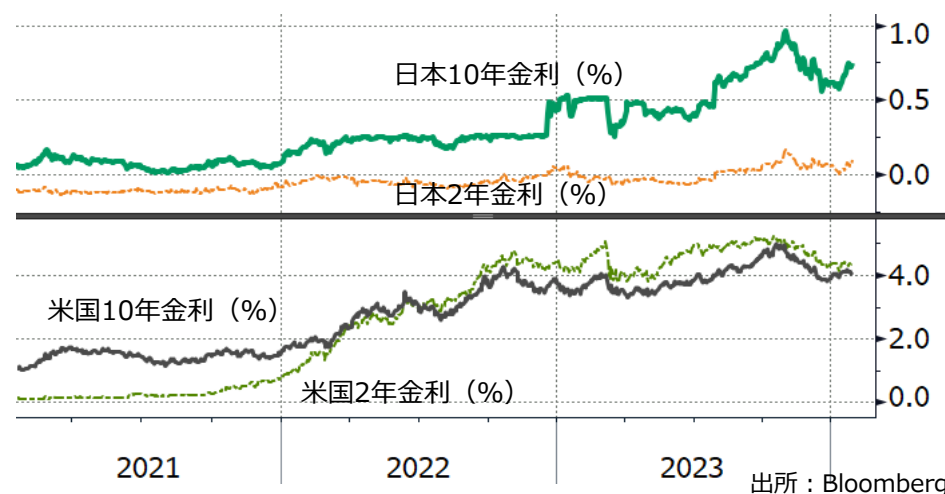
ダウは小幅上昇

36,000 – 39,000ドル

ハイテク株主導で小幅上昇を見込む。高バリュエーションは正当化され得ると考える

1月のダウ平均はTSMCの好決算を受けて、ハイテク関連株主導で上昇。エヌビディア等を中心にハイテク株はこどもと大きく上昇しているが、その高い利益成長率を加味すると、高バリュエーションは正当化され得る。2月にかけて主要企業の決算発表が続くが、AI関連の先端半導体関連の業績は市場想定以上に良好となる公算が大きい。また、行き過ぎた利下げ織り込みは剥落しようが、それは米景気の底堅さを反映したものであり、株価への悪影響は限定的とみる。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

金利は上昇

0.50 – 0.90%

日銀の3月～4月利上げの確度が高まった

1月の国内長期金利は大きく上昇した。年明けは震災の影響等により日銀の早期利上げが遠のいたとの見方から金利低下する場面もあったが、1月の日銀会合は展望レポートの記載、植田総裁の記者会見のいずれも前向きな要素が強く、マイナス金利解除に向けて大きく前進したと受け止められた。春闘結果等が出そろった3月～4月にかけて、国内長期金利は緩やかに上昇していくと見るが、海外金利が低下基調となっていることが重石となり、急上昇は避けられるだろう。

米国債10年

金利は低下

3.50 – 4.50%

FRBが利下げに向かっている方向性は揺るがない

1月の米長期金利は小幅に上昇し、4%台を回復した。FRB高官から早期利下げを牽制する発言が続いたことや、発表された経済指標が市場予想を上回る傾向が強かったこと等から、市場では3月利下げの織り込みが後退し、中長期金利の上昇に繋がった。ただしインフレ関連指標は想定通り減速しており、FRBが利下げに向かっている方向性自体は揺るがない。4%台での金利上昇余地は限定的で、もみ合いからやや金利低下方向の地合いとなるだろう。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

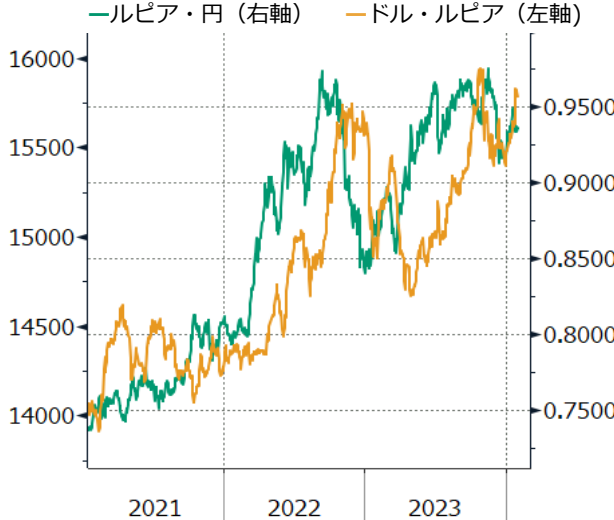
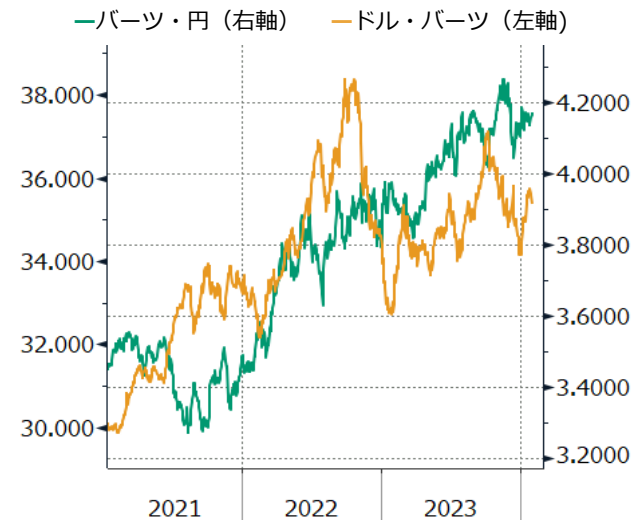
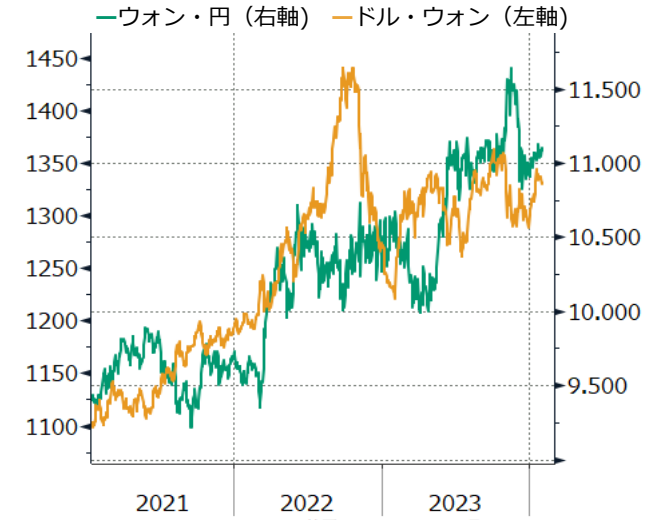
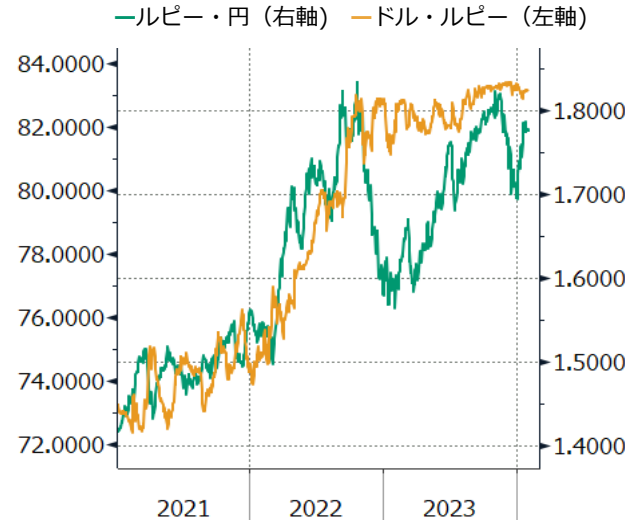
りそな マーケットフラッシュマンズリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年2月号)

2024/1/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 新興国通貨チャート



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年2月号)

2024/1/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨（アジア）

		1/30	1月の相場推移		2月の予想		解説
中国	人民元/円	20.56	➡	19.77～20.72	➡	19.71～21.52	中国の株式市場が低迷し、資金の海外流出懸念が高まったことで、人民元安がドル・人民元の上昇を主導した。しかし、22日には大手国有銀行が大規模なドル売り・人民元買いを行ったとの報道があり、人民元安が一時的に反転する場面も見られた。2月は10日から17日が春節となり、主要な経済指標の公表が少ないため、米ドルの動きに左右されるが、中国当局の通貨安定への意思は強そう。
	ドル/人民元	7.188	➡	7.11～7.23	➡	7.10～7.20	
タイ	バーツ/円	4.173	➡	4.09～4.19	➡	4.00～4.30	1月のドル/バーツは、①FRBの利下げ期待後退、②セター首相の中央銀行への利下げ要請CPI、③中国景気不安の3つの理由からバーツ安が進行した。米経済は個人消費を中心に堅調さを保っていることから、利下げの前倒しは織り込まれ辛いとみられる一方で、タイのインフレ率は落ち着いており利下げ前倒し観測が浮上し始めている。ファンダメンタルズからはバーツ安が進行しやすいだろう。
	ドル/バーツ	35.37	➡	34.10～35.88	➡	35.0～37.0	
インドネシア	100ルピア/円	0.937	➡	0.91～0.95	➡	0.90～0.95	1月のドル/ルピアは、両国の金利差拡大の他、2月14日の大統領選挙を前に財務相が辞任する可能性がある等、政治不透明感からルピア安が進行した。2月の大統領選で過半数の票を獲得する候補者が出なかった場合は、6月の決選投票まで政治不透明感が継続することになる。大統領選を消化するまでは方向感の出にくい展開となろう。
	ドル/ルピア	15,780	➡	15,430～15,843	➡	15,300～15,800	
インド	ルピー/円	1.777	➡	1.69～1.78	➡	1.73～1.83	1月ドル/ルピーは値動きに乏しい展開。原油価格上昇による貿易赤字の拡大や、堅調な米景気を背景としたFRBの利下げ期待後退などを考慮すると、ファンダメンタルズからはルピー安が進行しやすいだろう。もっとも、IMFが指摘した様に、22年12月以降のドル/ルピーは変動に乏しく、低位な先物プレミアムからは積極的な為替介入姿勢が窺える。2月のドル/ルピーも横ばい圏での推移を予想。
	ドル/ルピー	83.11	➡	82.77～83.35	➡	83.00～83.50	
韓国	100ウォン/円	11.119	➡	10.82～11.15	➡	10.75～11.25	1月11日に開催された韓国中銀の金融政策決定会合では、政策金利が据え置かれた。しかし、会合後の総裁記者会見での冒頭説明において、政策金利をこれ以上引き上げる必要性は低下したとの発言があった。韓国中銀のこれまでのタカ派姿勢が後退したことで、ウォンが下落しドル/ウォンが上昇した。しかし、韓国の主要な産業である半導体の生産と輸出が持ち直しており、実体経済が回復していることで一方的にウォンが売られることはないだろう。
	ドル/ウォン	1,330	➡	1,290～1,346	➡	1,270～1,360	

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年2月号)

2024/1/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 年間為替見通し

		2024年				ポイント
		1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	
ドル円	レンジ	130～150	125～145	120～140	125～145	FRBの利下げと日銀の利上げにより、日米金利差が縮小し、徐々に上値が重くなる。
	期末値	140	135	130	135	
ユーロドル	レンジ	1.00～1.20	0.95～1.15	1.00～1.20	1.00～1.20	インフレが着実に低下していることからECBのタカ派的スタンスも徐々に和らいできており、夏以降の利下げも視野に。ここまでの利上げの累積的な効果が波及しつつあり、米国対比で景気減速懸念が強く、EURの上値は重い。
	期末値	1.05	1.00	1.08	1.08	
ユーロ円	レンジ	135～165	130～155	125～155	125～155	
	期末値	147	135	141	146	
ポンドドル	レンジ	1.10～1.40	1.10～1.40	1.05～1.30	1.05～1.30	依然としてインフレが高止まりしていることから、早期の下げも視野に入る欧米対比で金融政策面ではタカ派的となりやすい。また足元経済指標には改善の兆しも見えてつつあり、欧米通貨対比で底堅い推移が見込まれる。対円では日銀の政策修正への思惑から上値重い
	期末値	1.20	1.25	1.25	1.25	
ポンド円	レンジ	150～180	140～170	140～170	140～170	
	期末値	168	169	163	169	
ドル人民元	レンジ	6.80～7.20	6.60～7.10	6.40～6.90	6.20～6.70	中国から資本が流出するとの懸念を抑制する面から、中国当局によって元は下支えされ、また景気支援策によって中国経済は徐々に回復していく。FRBによる利下げ期待から米中金利差は縮小し、ドル人民元を押し下げる。今年からグローバル製造業の本格回復で貿易黒字が拡大し、人民元買いにつながる。
	期末値	6.90	6.70	6.50	6.40	
人民元円	レンジ	18.06～22.06	17.61～21.97	17.39～21.88	18.66～23.39	
	期末値	20.29	20.15	20.00	21.09	
豪ドル円	レンジ	84.50～105.00	82.50～102.95	78.00～98.00	82.50～102.95	豪中銀の比較的にタカ派姿勢で足元底堅く推移するも日銀政策修正の思惑で上値が重くなる。
	期末値	93.80	93.15	88.40	93.15	
タイバーツ円	レンジ	3.60～4.70	3.50～4.50	3.40～4.50	3.70～4.80	観光業の回復、景気支援策から底堅く推移するが、日銀政策修正の思惑で徐々に下落へ。
	期末値	4.12	4.09	4.06	4.35	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

7

◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年2月号)

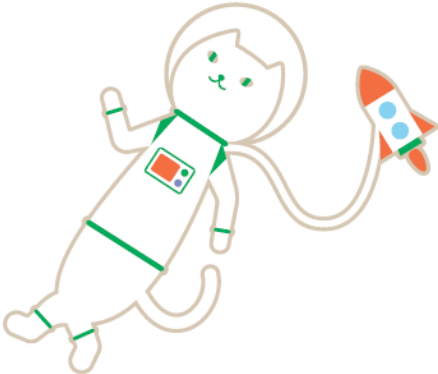
2024/1/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
2/1(木)	10年債入札	1月ISM製造業景況指数	(英) BOE金融政策委員会 (中) 1月製造業PMI
2/2(金)		12月製造業受注 12月貿易収支 1月雇用統計	
2/5(月)		1月ISM非製造業景況指数	
2/6(火)	12月家計調査 12月毎月勤労統計 (速報)	3年債入札	(豪) 準備銀行理事会
2/7(水)	30年債入札	10年債入札	
2/8(木)	1月景気ウォッチャー調査	30年債入札	
2/9(金)	5年債入札		
2/10(土)			(中) 正月休暇 (～17日)
2/11(日)	(建国記念日)		
2/12(月)	(振替休日)		
2/13(火)	1月企業物価指数	1月CPI	(独) 2月ZEW景気指数
2/14(水)			(インドネシア) 大統領・議会選挙 (欧) 10-12月期GDP (速報値)
2/15(木)	10-12月期GDP (一次速報値)	1月小売売上高 2月NY連銀製造業景気指数 2月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
2/16(金)		1月PPI 1月住宅着工・許可件数	

	日本	米国	その他
2/19(月)		(大統領の日 (ワシントン誕生日))	
2/20(火)	20年債入札		
2/21(水)	1月貿易統計	20年債入札 FOMC議事要旨	
2/22(木)		1月中古住宅販売	(欧) 2月PMI (速報値)
2/23(金)	(天皇誕生日)		(独) 2月IFO企業景況感指数
2/26(月)		1月新築住宅販売 2年債入札 5年債入札	
2/27(火)	1月消費者物価指数	2月消費者信頼感指数 7年債入札	
2/28(水)		10-12月期GDP (改定値)	(他) G20財務相・中央銀行総裁会議 (～29日)
2/29(木)	1月鉱工業生産 1月住宅着工件数 2年債入札	1月個人所得・消費支出	



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年2月号)

2024/1/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【12/29～1/4】

◎ 中国 12月の製造業PMI、6カ月ぶり低水準

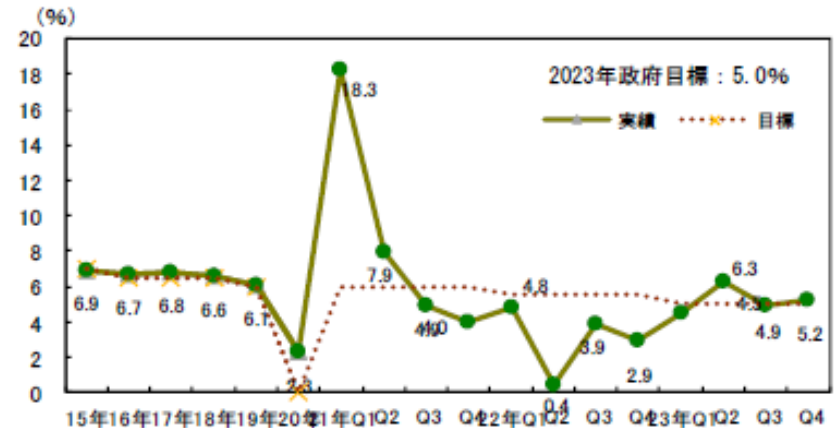
中国国家統計局と中国物流購買連合会が12月31日発表した2023年12月製造業の景況感を示す製造業担当者指数（PMI）は49.0%だった。前月から0.4ポイント下がり、6カ月ぶりの低水準となった。各項目指数を見ると、生産は50.2%となり、7カ月連続で節目の50を上回ったものの、前月から0.5ポイント下がった。新規受注が0.7ポイント下落の48.7%、新規輸出受注が0.5ポイント下落の45.8%、雇用は47.9%で、企業の人材採用意欲が下がっている。

【1/5～1/11】

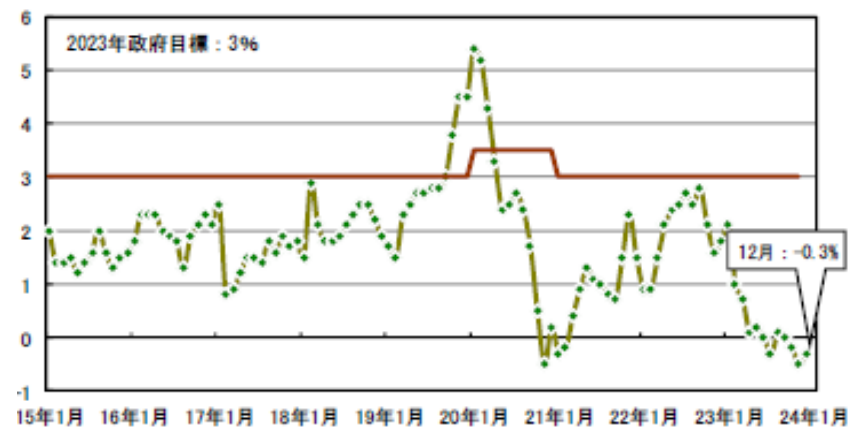
◎ 賃貸住宅向けの金融支援強化、住宅難解消へ

中国人民銀行（中央銀行）と国家金融監督管理総局が1月5日、人民銀行の各支店や国家開発銀行、各制作性銀行、国有商業銀行などに通知を出し、賃貸住宅市場の発展に向け金融支援対策を行う。具体的には賃貸住宅の供給増加に向けて、既存住宅の活性化や低・中所得者向け住宅「保障性住宅」の建設拡大などに乗り出す。賃貸住宅の経営に特化した大型企業の発展を支援する他、商業銀行が不動産開発企業や工業園區、企業、団体などに対して長期賃貸住宅の開発・建設に関する融資を行うのを支持する。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎ 注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年2月号)

2024/1/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【1/12～1/18】

◎ 23年のGDP成長率5.2%政府目標達成、消費主導で

中国国家统计局は17日、2023年の実質国内総生産（GDP）の成長率が前年比5.2%だったと発表した。成長率は2022年から2.2ポイント拡大し、政府が設定した経済成長率目標（5.0%前後）を達成した。GDP項目別の成長率への寄与度は最終消費支出が4.2ポイント、総資本形成が1.2ポイント、純輸出がマイナス0.2ポイント。各項目の寄与度が成長率に占める比率はそれぞれ80%、23.1%、マイナス3.1%となった。新型コロナの影響で前年の数値が低かった中、成長率は力強さに欠けたとの指摘もある。

【1/19～1/25】

◎ 23年の対中投資8%減少、マイナスに転落

中国商務省は19日、2023年の外資による直接投資（FDI）実行額が前年比8.0%減の1兆1,339億1,000万元（約23兆3,500億円）だったと発表した。産業別では、製造業向けが1.8%減の3,179億2,000万元。うちハイテク製造業向け（6.5%増）、医療機器設備・計測機器（32.1%増）、電子・通信設備（12.2%増）になり、サービス業向けは13.4%減の7,760億8,000万元で、建設業（43.7%増）、科学技術成果の転換サービス業（8.9%増）、研究・設計サービス業（4.1%増）が伸びた。外資系企業の23年の新設数は39.7%増の5万3,766社。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12
実質GDP成長率	%	-	4.5	-	-	6.3	-	-	4.9	-	-	5.2
消費者物価上昇率	%	1	0.7	0.1	0.2	0	-0.3	0.1	0	-0.2	-0.5	-0.3
都市部調査失業率	%	5.6	5.3	5.2	5.2	5.2	5.3	5.2	5.0	5.0	5.0	5.1
輸出額	10億ドル	208.7	302.5	288.2	281.0	283.5	280.8	283.9	296.5	274.3	292.7	303.6
輸入額	10億ドル	196.7	225.4	203.1	216.0	214.0	201.4	216.6	221.2	218.1	223.3	228.3
経常収支	100万ドル	-	81,530	-	-	146,257	-	-	209,038	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,133.2	3,183.9	3,204.8	3,176.5	3,193.0	3,204.3	3,160.1	3,115.1	3,101.2	3,171.8	3,238.0
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.84	6.89	6.89	7.00	7.16	7.19	7.25	7.30	7.31	7.22	7.14

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年2月号)

2024/1/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○囲炉煮茶から囲炉缶々茶～冬の消費トレンド

中国では昨秋から囲炉煮茶が人気になりました。
今年も人気が続いていて、ちょうど今は囲炉煮茶の季節がやってきました。

囲炉煮茶は家族や友人と七輪を囲みながらお茶を煮出し、みかん、栗や餅、落花生、おやつなどを一緒に焼き、食べながらお茶を楽しむということです。

ただお茶を飲むという堅い印象を打ち破り、コーヒーを飲むのと同じように、ルールがなく、気軽に座ってお茶を飲めることができ、雰囲気がよく、のんびりできてとても心地よいです。特にアフターコロナにおける人々の心身を癒し、煩雑さから遠ざかりたいという期待に多少応えています。

また、今年は囲炉煮茶から囲炉缶々茶(罐罐烤奶)にバージョンアップしています。大きな違いは缶の容器に入ったお茶にナツメやコクの実、桂花などが入ったミルクティーになったという点です。

店舗のセットメニューは150～300元（約3200～6250円）が一般的となります。

これからは季節の変化に適應できるように、特に夏の気温を考慮し、それに応じたメニュー調整を行う必要があり、更なる多様化に取り組むと店の経営者が語っています。

会があれば、皆さんも一度体験してみてください～♪



○ハルビン観光が爆発的人気に！

中国の北東、ロシアの近くに位置するハルビンは黒龍江省の省都で、「極東のパリ」と呼ばれアジアとヨーロッパの文化が交わる場所です。ハルビンは冬の観光目的地として高い人気を集め、特に昨年の12月中旬から大勢の観光客が中国南部からハルビンに押し寄せ続けています。統計によると、常住人口900万人以上のハルビンは、元旦3連休中に300万人以上の観光客を受け入れ、総観光収入は59億元に達しました。いずれも過去最高額であり、ネット上で一躍人気の都市になりました。

東北観光を楽しみに来る観光客に対して、ハルビン市は観光客を楽しませようと「ユニークな技」を次々と披露しています。ハルビンの空港ではフラッシュモブダンス、商業施設ではオーケストラのコンサートが行われ、中央大街でオロチョン（鄂倫春）族がトナカイを連れて通りを歩き、熱気球が松花江に舞い上がり、ロマンチックな雰囲気を演出しました。

また、ハルビンは全力で「誠意」を示して観光客をもてなし、同市の市民も積極的に呼び掛けに応じ、多くの人が自家用車を使って観光客の無料送迎を行っています。中央大街では自家製の生姜茶の提供や、観光客へのカイロ配布も全部無料です。こうした様々な「おもてなし」の提供により、ハルビンに対する好感度が爆上がりしていました。

今のハルビンは聞いているだけでとても楽しそうですね。

皆さんも冬のハルビンに行きたくなりませんか？

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー
& アジア・新興国FXフラッシュ (2024年2月号)

2024/1/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ経済は前月に続き安定、内需後押しで

タイ中央銀行は、2023年11月のタイ経済は前月に続き安定したとの見方を示した。民間消費と民間投資とも好調であることが背景にある。民間消費指数は前年同月比7.4%増で、非耐久財消費を中心に拡大した。民間投資指数は同0.3%増と前月の3.1%減からプラスに転じた。設備投資は資本財の輸入が増加したこと等で前月より拡大したものの、建設投資は低調だった。外国人観光客数は前月より増加した。中国人に対する観光ビザ免除の効果が見られた。一方、鉱工業生産指数は同4.7%減少し、14カ月連続の下落となった。食品・飲料、自動車等の生産が減速した。一方、ハードディスク駆動装置（HDD）の生産は増加し、回復の兆しが見えている。

◆2023年11月輸出額、4カ月連続プラス

タイ商務省によると、2023年11月の輸出額は前年同月比4.9%増の234億7,970万米ドルと、4カ月連続のプラスとなった。各国のインフレ鈍化や金利据え置きに加え、年末商戦を

控えて商品の需要が高まった。農産物・加工品の輸出は前年同月比4.9%増と3カ月連続拡大し、主要工業製品も同3.4%増で2カ月連続のプラスになった。11月の輸入額は前年同月比10.1%増の258億7,910万米ドルで、貿易収支は23億9,940万米ドルの赤字となった。

◆2023年CPI、前年比1.23%上昇

タイ商務省が発表した2023年の一般消費者物価指数（CPI）の平均値は、前年比で1.23%上昇した。前年の6.08%上昇から大幅に減速した。生鮮食品等が生産コストの上昇や観光回復に伴う消費需要の拡大で値上がりした一方、石油燃料は値下がりした。分野別では、食品・飲料が前年比2.56%増、非食品が同0.29%増とそれぞれ上昇した。

◆最低賃金、2024年1月1日から平均2.37%引き上げ

タイ政府は26日、2024年1月1日から最低賃金を引き上げることを承認した。地域ごとに2～16バーツ（約8～16円）引き上げる。平均賃上げ率は2.37%。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12
実質GDP成長率	%	-	2.6	-	-	1.8	-	-	1.5	-	-	-
消費者物価上昇率	%	3.8	2.8	2.7	0.5	0.2	0.4	0.9	0.3	-0.3	-0.4	-0.8
失業率	%	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	-
輸出額	100万ドル	22,567	28,004	21,794	24,459	25,395	22,143	24,280	25,476	23,579	23,480	-
輸入額	100万ドル	23,206	24,731	23,000	25,994	24,528	24,121	23,920	23,384	24,411	25,879	-
経常収支	100万ドル	991	4,540	54	-2,832	1,725	-1,054	484	3,171	665	-1,244	-
外貨準備高	10億ドル	217.4	224.5	223.5	220.8	218.2	220.7	216.9	211.8	210.9	219.1	224.5
主要政策金利	%	1.50	1.75	1.75	2.00	2.00	2.00	2.25	2.50	2.50	2.50	2.50
対ドル為替レート	バーツ	34.1	34.5	34.3	34.3	34.9	34.6	35.0	35.9	36.5	35.5	34.9

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2024年2月号)

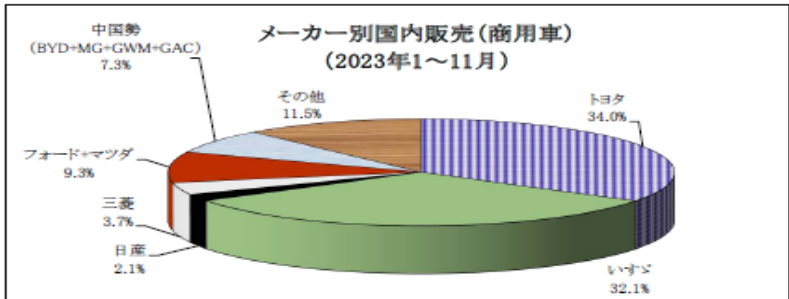
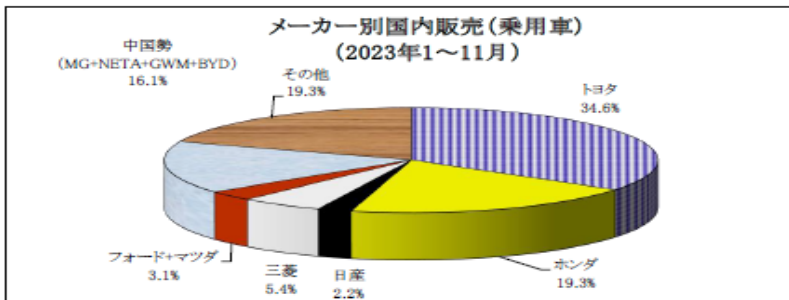
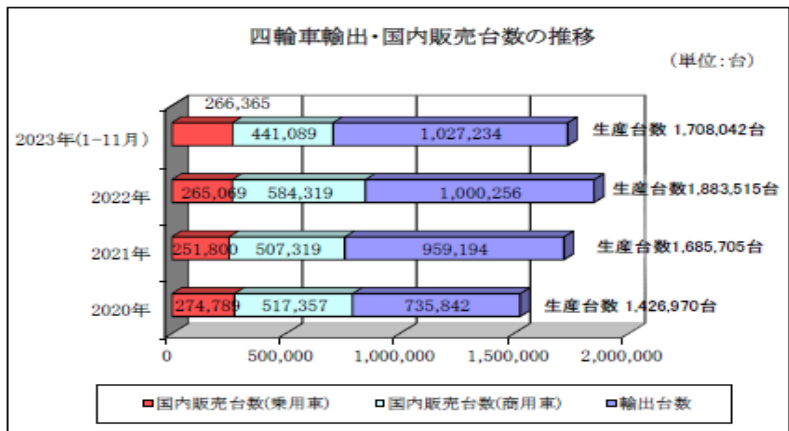
2024/1/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

			出所:タイ工業連盟 (FTI)					
			2020年	2021年	2022年	2023年 (1-11月)	前年同期比 (%)	11月
【台数】 (台)								
四輪	生産台数	乗用車	542,437	599,844	600,839	598,704	109.6	60,396
		商用車	884,533	1,085,861	1,282,676	1,109,338	94.1	102,941
		合計	1,426,970	1,685,705	1,883,515	1,708,042	99.0	163,337
	国内販売台数	乗用車	274,789	251,800	265,069	266,365	110.8	24,567
		商用車	517,357	507,319	584,319	441,089	83.8	37,054
		合計	792,146	759,119	849,388	707,454	92.3	61,621
	輸出台数		735,842	959,194	1,000,256	1,027,234	115.6	99,609
二輪	生産台数		1,615,319	1,780,654	2,015,940	1,956,210	106.6	178,045
	国内販売台数		1,516,096	1,606,481	1,792,016	1,724,437	104.7	143,121
	輸出台数		727,152	965,967	1,034,840	746,035	79.1	76,148
【完成車輸出金額】 (百万バート)								
四輪			410,912	561,147	619,348	657,492	118.8	66,576
二輪			85,802	75,985	73,729	62,825	94.3	6,849

			出所:トヨタ自動車									
【メーカー別国内販売台数】			2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年	シェア (%)	2023年 (1-11月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	11月
トヨタ	乗用車		68,152	24.8	62,403	24.8	82,738	31.2	92,034	124.7	34.6	7,512
	商用車		176,164	34.1	177,320	35.0	206,071	35.3	149,810	81.1	34.0	14,188
	合計		244,316	30.8	239,723	31.6	288,809	34.0	241,844	93.5	34.2	21,700
いすゞ	乗用車		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車		181,194	35.0	184,160	36.3	212,491	36.4	141,671	72.9	32.1	10,415
	合計		181,194	22.9	184,160	24.3	212,491	25.0	141,671	72.9	20.0	10,415
ホンダ	乗用車		77,419	28.2	76,886	30.5	61,665	23.3	51,297	91.8	19.3	3,928
	商用車		15,622	3.0	11,806	2.3	21,177	3.6	33,219	178.2	7.5	3,400
	合計		93,041	11.7	88,692	11.7	82,842	9.8	84,516	113.4	11.9	7,328
日産	乗用車		27,120	9.9	19,790	7.9	10,933	4.1	5,728	55.6	2.2	399
	商用車		17,438	3.4	9,906	2.0	11,588	2.0	9,308	92.6	2.1	751
	合計		44,558	5.6	29,696	3.9	22,521	2.7	15,036	73.9	2.1	1,150
三菱	乗用車		22,363	8.1	18,456	7.3	21,157	8.0	14,291	73.9	5.4	872
	商用車		35,046	6.8	28,732	5.7	29,228	5.0	16,175	60.2	3.7	1,314
	合計		57,409	7.2	47,188	6.2	50,385	5.9	30,466	66.0	4.3	2,186
その他	乗用車		79,735	29.0	74,265	29.5	88,576	33.4	103,015	127.1	38.5	11,856
	商用車		91,893	17.7	95,395	18.7	103,764	17.7	90,906	99.3	20.6	6,986
	合計		171,628	21.8	169,660	22.3	192,340	22.6	193,921	112.3	27.5	18,842
合計	乗用車		274,789	100.0	251,800	100.0	265,069	100.0	266,365	110.8	100.0	24,567
	商用車		517,357	100.0	507,319	100.0	584,319	100.0	441,089	83.8	100.0	37,054
	合計		792,146	100.0	759,119	100.0	849,388	100.0	707,454	92.3	100.0	61,621



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。